

## 「ハートのビート。」 vol. 01

宮永琢生 制作

はじめまして。ままごと制作の宮永です。30歳です。スキュンズってゆーのやってます。お酒と音楽と猫が好きです。

さて、このコーナーでは、私が皆さんにぜひ聴いてもらいたい音源をご紹介させて頂きます。うん、なんとか訳く。音楽が好きなの。みゅーじっくらぶ。今号でご紹介するのはこの一枚。



オノマトベ大臣とトーフビーツ  
『水星』

耳の早い人には既に知られた名曲。次世代トラックメイカーの最右翼「Tobias」トーフビーツ」と盟友の会社員ラッパー「オノマトベ大臣」のエバグリーンなメロウチューン。PUNBE氏のリミックスもヤバイ。2012年のムーブメントを牽引するのはこの二人かもしれない。ちなみに本作はアナログ盤のみで発売。販売している「JESSE」でも発売しているの要注意。聴きたい人はYouTubeで。また、Sound Cloudでも様々なリミックス作品が公開中。個人的には、リズムステップブループスの「matホテルオークラ」MKXがオススメ。  
※<http://www.jessecords.net>

Takuo Miyazawa 東京都出身。プロデューサーニックZuOnZ (ニッケンズ) 主宰。

## 「いわきのこと」第1回

端田新菜 俳優

『わが星』のツアー・ゴール地点は、福島県のいわき市にある、いわき総合高校でした。

そのとき出会った高校生と先生との、それからの一年を、これからゆつくり書き留めさせてもらいます。どうぞよろしく願います。

2011年3月11日、わたしは岐阜県の可児市のウィークリーマン・シヨウから、『わが星』の旅の最後にみんなでいわきの温泉に行ったらいいんじゃないかと調べ上げた、いくつかのプランを朝一番に『わが星』メーリスに流しました。可児での仕事が終わる3日前の朝でした。中島佳子ちゃんがすぐに「行こう行こう」と返信をくれました。

そのあとの強い揺れで、いわき公演は中止となりました。

でも、わたしたちは、なんだかずつと、漠然と、「いわきには、行く」と思っていました。

そして本日に6月4日と5日、わたしたちはいわき地区に7校ある演劇部員を対象としたワークショップを行い、『わが星』本編を新しくアレンジし直した『いわきのわが星』を上演しました。いわきアリオスの今尾博之さん（今は新潟のりゅーとびあでお仕事をなさっています）、いわき総合高校のいいみちこさんらのご尽力のおかげでした。

こんな風にして、わたしはいわきの高校生達に出会いました。（続く）



左から三浦俊輔、村田シゲ、大柿友哉。  
いわきアリオス前にて。

Nina Hashida 京都府出身。青年団所属。2011年、ままごと加入。五反田団、ハイバイ、チェルフィッチュなどにも出演。

## 「わたしの履歴書」一枚目

大石将弘 俳優

大石将弘。172センチ、59キロ。29歳、いて座、O型。奈良県に生まれて、18歳から大阪、大学卒業してから東京に住んでいます。演劇をしています。役者、です。趣味は、歩くこと、ちよつと走ること、白米とビールをおいしくいただけるごはんを食べること。

これで、あとは特技と志望動機を書けばいい履歴書なんです。ここで筆がとまります。

どうなんだろう、真つ当に生きていけば、特技と呼べるものの一つやいくつかが、挙げられるのが普通ですか。そうでもないですか。どうなのそこんところっという。

特技の欄に何を書くのが、それが人生を大きく左右することはまあ滅多にないと思いますが、問題は、何を書くか、ではなくて、どんな顔して特技欄をやり過ぎせるかっていうことなんだと思うのですね。何言ってるかわからないですね。すみません自分の話ですが、僕は空っぽの特技欄を締切ギリギリまで先延ばしにして、未だ捻り出したものに絶望して、暗澹たる気持ちで提出することになります。「ムーンウォークのできそこない」だの、「眉毛の間にすくしわが寄る」だの、お茶をだくだく濁すことだけに苦しんできました。

このままではちよつと人生を左右しかねないと思っていて、精神衛生的にも、特技欄との付き合い方という課題に直面している30歳手前の今の僕です。よろしくお願ひします。

Masahito Oishi 奈良県出身。2010年、ままごと加入。マーム・シフシー、田上バル、さなどにも出演。

## 編集後記

劇団でありつつも、メンバーそれぞれがそれぞれに、日本の何処かで活動している「ままごと」。そのそれぞれの活動の足跡を、新聞という形で残そうというのは、いかにも彼らしいと思うのです。次回第2号もお楽しみに。（熊井）

企画・編集＝ままごと  
構成＝熊井玲  
デザイン＝西山昭彦

## 『朝がある』稽古場より

今は5月中旬。僕は、毎日、井の頭公園を歩きながら稽古場へと向かっています。犬の散歩をしている人、親子で遊んでいる人、池でボートに乗っているカッパル、緑の色と、噴水と、光と、雲土の上を歩くのもとても気持ちいいものです。

井の頭公園の中にあるテニスコート事務所の一室が、稽古場です。ここは陽射しがほどよく当たり、猫が隣の芝生をよく歩いている。稽古時間はお昼の12時から夕方5時まで。この場所と時間は、今回の作品にとっても強く作用すると僕は考えています。

その稽古場で、今は数ページのテキストを、何周も、何回も稽古しています。例えば、そこになにも見ながら、そこになにも触れながら、近寄り、遠ざかったり、踏んづけたり、かさなったり、そして、歌にしたり、ないものを、あるように、あるものを、そこにあると実感できるように。それが、今回の作品、『朝がある』です。

柴幸男



ままごと+三鷹市芸術文化センター presents  
太宰治作品をモチーフにした演劇 第9回

## 「朝がある」

2012年6月29日(金) - 7月8日(日)  
三鷹市芸術文化センター 星のホール

作・演出：柴幸男 出演：大石将弘

TICKET (全席自由・日時指定・整理番号付)

一般 前売3,000円・当日3,500円 財団友の会会員 前売2,700円・当日3,150円  
高校生以下1,000円 (前売・当日とも)

	6/29金	30土	7/1日	2月	3火	4水	5木	6金	7土	8日
15:00		●	●	休		●			●	●
19:00		●		館					●	
19:30	●			日	●	●	●	●		

ままごと ウェブサイト <http://www.mamagoto.org/>

チケット取り扱い

■ままごと (予約のみ)

<http://www.mamagoto.org/>

■チケットぴあ (Pコード419-257)

0570-02-9999 <http://t.pia.jp>

■カンフェティ

0120-240-540 <http://confetti-web.com>

■三鷹市芸術文化センター

0422-47-5122 <http://mitaka-art.jp>